

イマそこにあるのに、男だけが気づいてない危機。
それは「日本の男社会」……！！

男をこじらせる前に

男がリアルにツライ時代の処方箋

著：湯山 玲子

【発売日】2015年1月30日【価格】定価1600円（税別）

【体裁】四六判 【ISBN】978-4-04-110726-3

【発行】株式会社KADOKAWA

学歴、モテ、出世、競争。男を支えてくれない女。

「男」を支えてきた価値観が揺らぎ、全世代がこじれまくっている。「男を生きづらくする鎧」を脱ぐ方法、日本と家庭と人生とを明るくする、新しい「男の生きる道」を、気鋭の女性エッセイストが看破する！

画期的男のサバイバル・エッセイ。

あきらめるのはまだ早い！こじらせ親父になる／絶望する前にまずは読め！！

＜水道橋博士推薦！＞

【目次の一部】

「出世」「金」「女」を離れ、男たちはカフェを作り始めた ●村上春樹が持ち込んだ「気分がいい」主義／おぎやはぎはなぜモテるか ●「普通」の男がモテる理由 ●対立を包容へ、という新たなスタイル / マツコ・デラックスがやってきた ●ナンシー関にも見てとれる性の埒外スタンス ●女文化とのバイリンガル性を手に入れる / 「上の空な男」が私をクラクラさせる ●思わず惹かれる男の儂さと危うさ / 「モテ」は思想である ●「受け身」のモテは都合のよいファンタジー ●モテに競争原理を持ち込まない ●「バカな男」の株急上昇 / 男における感情問題 ●男は未だに感情を無いことにして生きている ●人生を計量化しない / マザコン上等で生きるしかない ●ラクでトクに気づいてしまった男たち ●母親の無意識の欲望は、息子の恋人化 ●ネオパパは妻の「息子」である / わかっちゃいるけど止められない、「競争」 ●男の「競争」意識は、シンデレラ・コンプレックスよりタチが悪い ●「負ける恐怖」から自由になる / 歌舞伎と忠義から学ぶこと ●我が身の安心と安全をお上に預ける自動思考 ●「組織の埒外の男はまっとうではない」という呪い / 外国と他者を受け容れる法 ●「ニッポン男子イン外国」は皆、内に漱石を抱えている / 男はひとりの坂本龍一がいればよい ●女の本音は「こうなったら子どもさえいればよい」 ●坂本龍一になれなければ、どうするか

【書籍についてのお問い合わせ】

株式会社 KADOKAWA

文芸・ノンフィクション局 第1編集部 文庫編集部 郡司珠子 gunji-t@kadokawa.jp

TEL : 03-3238-8555 / FAX : 03-3262-7646

〒102-8078 東京都千代田区富士見 1-8-19